

ゆりかもめ

yurikamome



ゆりかもめ発行に寄せて 中池見人と自然のふれあいの里 館長 河崎 康宏

昨年3月に延伸開業した北陸新幹線。その敦賀駅から約2キロの場所にある「中池見湿地」は、ラムサール条約にも登録されており、「日本一新幹線駅から近い条約湿地」として、新幹線効果も相まって県内外から多くの観光客が訪れるようになりました。

この湿地は、土地の隆起によってできた池に枯れた植物が堆積し、泥炭層を形成したものです。87ヘクタールの登録地内には4000種以上の生物が確認されており、中には福井県内では中池見でしか自生が確認されていないデンジソウをはじめ、90種以上の絶滅が危惧される生き物も含まれていて、多様性に富んだ生態系が息づいています。

この号が発行される10月頃には、世界でも北海道を除く本州中部以北でしか見ることのできない希少な渡り鳥「ノジコ」が、中継地として飛来します。さらに、今年3月にはコウノトリも飛来し、大きな魅力となっています。

多様な動植物が織りなすこの美しい自然環境を未来永劫、地域の宝として後世に伝え、来訪者の方々に大きな感動と学び、そして喜びを与えていけるよう、今後とも温かいご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



中池見湿地 後谷の湿地環境の復元工事について



中池見湿地は、2012年にラムサール条約湿地に登録されました。登録後に北陸新幹線のルートが公表されましたが、湿地への影響を減らすべく検討がなされ、3年後ルートが少し東側に変更され、トンネルの工事工法も工夫がなされました。2021年に深山トンネルの工事が完了した後、「後谷」に流れる湧水が減少するなどの影響が出たことから、鉄道運輸機構が代替措置として過去に埋め立てられた盛り土の撤去工事を行うことになりました。

その工事が、昨年7月より実施され、土砂を撤去した後、ため池や水路も整備され、作業がほぼ完了しています。多くの生き物が住む環境の復元に期待が寄せられています。

INFORMATIONs

☆敦賀市立博物館

- 特別展 つるがのみほとけ～海辺の祈り、山里の祈り～
前期 令和7年10月17日（金）～11月7日（金）
後期 令和7年11月8日（土）～11月30日（日）

古くから湊町、交通の要衝として栄えた敦賀は、越の道の口にあって戦争の被害も大きく、特に社寺に伝わる文化財は多くが失われたと考えられてきました。しかし、比較的被害の少なかった湊周縁や野坂山麓の地域には、歴史を秘めた仏像が大切に守られてきたことがわかって来ました。こうしたみほとけの像をはじめ、優れた経典など、敦賀の歴史の中で伝えられてきた仏教文物を紹介します。あわせて10年に及ぶ西福寺修復事業や、宗派を越えて地域の紐帯として再び語られる存在となった気比神宮寺、今もなお訪れる人の絶えない若越八十八ヶ所巡礼についても紹介します。

（敦賀市立博物館 特別展の案内より）



地藏菩薩坐像 刀根区
敦賀市指定文化財

ガイドの依頼・問合せ

ガイドの依頼及び問合せは、敦賀観光協会にて受付けています。申込み用紙は、下記のアドレス内の「団体向け観光ガイド」から申込書をダウンロードし、必要事項を記入いただいた後、敦賀観光協会宛てにお送り下さい。

港都つるが観光協会 TEL 0770-22-8167
FAX 0770-22-8197
URL <https://tsuruga-kanko.jp/>

ガイドメンバー募集中

観光ボランティアガイドつるがは、随時メンバーを募集しています。敦賀のことをもっと知りたい方、観光に来られた方に紹介したい方、人と接するのが好きな方、入会に制限はありません。下記の連絡先までお気軽にお問い合わせ下さい。

ボランティアガイドつるが TEL 0770-21-0056
港都つるが観光協会 TEL 0770-22-8167

編集後記

北陸新幹線敦賀開業によって県内外からの観光客も増えている中池見湿地、最近、皆さんは行かれたことはありますか？晴れ間を見て是非行ってみてください。抜けるような空と湿地に咲く秋の小さな花、赤トンボなど色々見どころはあります。砂利道だったり、あぜ道だったり、木道だったり、子どもの頃感覚を思い出して、自然と小走りになったり、笑顔になったりしてしまっています。

中池見では、アメリカザリガニの駆除が続けられて、トチカガミの繁茂する池、栗木谷の池で、10月中旬頃まで、ツインの可愛いトチカガミの白い花が咲いています。まるで皆さんの方を向いて声を出して歓迎しているように待っています。

今回、何度か撮影で訪れましたが、近くを楽しそうに歩いていたらお二人にも、見て行つてと声を掛けました。一段高い所にある池なので見過ごしてしまいが、まるで絵画の世界のようです。まだ、花が間に合うといのですが。（将）

敦賀の誇る中池見湿地は、屈指の生物多様性を誇り、2012年には「ラムサール条約」に登録されました。その環境の保全には並々ならぬ努力が続けられています。「中池見ねつと」の藤野勇馬さんに取り組みの一端と、これから秋にかけての見どころをご紹介します。

中池見湿地は

敦賀の市街地の北東部に位置する中池見湿地は、これまで動植物やプランクトンなどあわせて4000種以上の生物が記録されている日本でも屈指の生物多様性を誇る湿地です。キタノメダカやトノサマガエル、デンジソウなどかつては田んぼでふつうにみられた生き物が今でもたくさん暮らしているほか、中池見で初めて見つかったことからその名がつけられたナカイケミヒメテントウなどの希少な生物も確認されており、2012年には国際的に重要な湿地を守るための条約「ラムサール条約」に登録されました。

ひよつとすると、中池見湿地といえばアメリカザリガニのことを思い浮かべる人もいるかもしれません。かつては中池見でもザリガニ釣り体験などを提供していましたが、生態系に与える被害の大きさから今では「条件付き特定外来種」に指定され、販売や放るべき外来種です（ちなみにニホンザリガニは元々東北の一部と北海道にしか生息していないので、福井県のザリガニはすべて外来種です）。



上の写真は、2022年「栗木谷の池」のザリマジ活動の様子。下2枚は、本年9月末の同じ池。トチカガミの小さな花が沢山揃って出迎えてくれます。小さな池ですが絵画の世界を楽しめます。



ザリガニとの闘い

アメリカザリガニは中池見湿地に1990年代に侵入しました。ナミゲンゴロウなどザリガニの侵入と前後して中池見から絶滅してしまった生物も少なくなく、特にトチカガミという水草はザリガニの大好物で、かつては湿地内の水路を覆いつくすほど繁茂していたものが、ザリガニの侵入から数年でほぼ絶滅してしまいました。同時期、福井県内全域でも絶滅が相次ぎ、ついには中池見で保護のために栽培されていたごく少数の株を残すのみとなってしまったのです。こうした現状を受け

中池見湿地の保全を行うNPO法人中池見ねつとは2022年、トチカガミの野生復帰を目標に「トチカガミプロジェクト」を立ち上げ、ザリガニ対策専門のグループ「ザリガニマジで獲る！チーム（通称ザリマジ）」の活動を開始しました。

ザリマジでは連続捕獲装置と呼ばれるワナを湿地内10数か所に設置して週に1度の回収を行うほか、浅い湿地や冬の間は網を使ったすくい取りによってザリガニを捕獲しています。2022年3月から2025年9月までの間に合計56、000匹以上のザリ

ガニ防除に成功しました。

よみがえるトチカガミ

これと並行して湿地内2か所でトチカガミの再導入を実施。初めのうちはザリガニの侵入を防ぐ囲いを作らないとすぐに食べつくされてしまう状況でしたが、3年間毎週ワナによる大型個体の駆除と網による小型個体のすくい取りを続けた結果、ビジターセンタ―北側の「栗木谷の池」でザリガニをほとんど根絶することに成功し、今年ついにトチカガミが囲いの外にまで広がり、たくさんのお花を咲かせるまでにいたりました。

ザリガニとの闘いはまだまだ道半ばで、めげそうになることもありますが、トチカガミの白い花と葉っぱの間を行き交うイトトンボやカエルやメダカの様子を見ると、この活動を続けてきてよかったと心の底から思えるのです。

秋にかけての見どころ

トチカガミの白い花は10月中頃まで楽しめるほか、オオニガナやマアザミ、ミゾソバなどの秋の花々やアカカネなどのアカトンボはこれからが見ごろ。稲刈り後の田んぼでは種々の水田雑草たちが米粒より小さな色とりどりのへ

一緒にしませんか？

ガイドつるがの取り組み紹介

観光客の皆さんへの敦賀のみどころのご案内では、おもてなしの心を大切に、楽しい出来事も沢山経験します。また、様々な経験をお互いに話し合っ参考にしたたり、研修などにも積極的に参加して楽しく取り組んでいます。

私たち観光ボランティアガイドつるがは、20代から70代の28人老若男女で活動していますが、新しい仲間も随時募集しています。一緒に楽しく活動してみませんか？



鉄道資料館で昭和の頃の港を説明

メンバーには、話すのが楽しいと言う人が沢山いて活動の拠点である敦賀鉄道資料館には、いつもメンバーが集まって来て、色々な話題で盛り上がりがあります。ガイドの時の質問や自分で新しく調べた事など、楽しく話し合うことでお互いに情報交換しながら各自の知識アップも図っています。皆さん入会の動機は様々で、敦賀の歴史を学びたいとか、敦賀の名所をもっと知りたいとか、お客さんに敦賀の好きなどところを紹介したいとか、人と話をするのが好きとか、会の活動をサポートしたいとか、誘われたからとか本当に色々です。皆さんそれぞれ時間を調整してガイドつるがの活動に取り組んでいます。

ガイドの現場では

観光客の皆さんをご案内するときは、予約された時の希望にそった場所や内容、時間でもって検討して、当日案内します。もちろん小さなトラブルもあります。それでも、ご案内した皆さんに喜んでいただけたらいいな、次はこうしようとか、この話は最初にしよとか色々工夫しながら取り組んでいます。新幹線の敦賀開業以降、敦賀に来られる方は増え、ガイ



氣比神宮手水舎を英語で解説

次世代層への案内

平和教育を目的として敦賀ムゼウムを訪問する中学高校の修学旅行もあり、その案内を依頼されることもあり、また、地元の小中学校の生徒さんへの「ふるさと学習」で氣比神宮などの案内の依頼もあり、とても楽しい活動です。先日小学生の案内があり、生徒さん達は熱心にパネルを見ながら書き取ったり、解ら



小学校の生徒さんへのガイドの様子

ないことがあればガイドの方に聞きにきたりして積極的に学んでいました。駐車場で見送るのも楽しい時間です。帰る時にはお互いに一生懸命手を振ってさよならします。後日お礼の作文が届くこともありとても嬉しい出来事です。

実際にガイドを担当するのは、段階を経てからお願いしています。最初は見学し、次は誰かと一緒に、サポートを受けながら少しずつ段階を経てからお願いしています。ご安心ください、優しいメンバーばかりで、活動の拠点は金ヶ崎緑地の鉄道資料館です。お気軽に資料館にお越しください、お待ちしております。



藤野勇馬さん

花を競うように咲かせています。右の写真の黄色い花はオオニガナ、ピンクの花はミゾソバ、エンジ色はミソハギの花がらです。秋の訪れとともに鮮やかに色を変える中池見の景色とともに足元に広がる小さな生き物たちの世界にもぜひ目を向けてみてください。そのほか10月以降は週末に水生昆虫や植物の観察会、サイエンスカフェやワークショップなどのイベントも複数開催予定です。毎週土曜日には「ザリマジ」の活動も行っています。

詳しくは中池見ねつとHPまたは公式SNSをチェックしてみてください。